

基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち

Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり



- ・誰もが引き寄せられる都市の魅力を生み出すため、災害に対して強くてもやさしさを備えた持続可能な「まち」づくりを進める。

(1) 災害に強いまちづくりの推進

- ・人命を守ることを最も重視し、ハード・ソフト両面からの充実・強化を進め、地震・津波、水害などの災害による被害を最小限に留める。
- ・地域と行政の緊密な連携により地域防災力の強化を図る。

◆ 地域防災の推進

- 地域の特性や災害事象などを考慮し、市民一人ひとりが、確実に防災情報を入手することができる多様な手段の確保を進める。
- 土砂災害警戒区域における被害の防止に向け、市民に危険区域の周知を図るとともに速やかな避難体制の整備を支援する。
- 市民へ防災知識の普及・啓発を図り、市民の自助・地域の共助に対する活動を推進する。
- 緊急輸送路上の橋りょう、上下水道の基幹管路などの耐震化とともに、総合治水対策を推進する。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 自分の生命と財産は自分で守らなくてはならないと思う人の割合
78.3% 82.0%
- ・ 緊急輸送路上の橋りょう耐震対策実施数
98橋 114橋 (累計)

Ⅲ-2 にぎわいの創出



- ・創造都市・浜松を推進するとともに、都市としての魅力を高め、デジタルの力を活用しながら、浜松ブランドを確立する。
- ・都心部はもとより、中山間地域についても、にぎわいのある「まち」を創出

し、交流人口・関係人口の拡大につなげる。

(1) 創造都市の推進

- ・ 文化を通じて国内外に感動を与える創造都市を築くため、浜松版アーツカウンシルによる伴走支援等によって、市民の多様な創造的活動を促進する。
- ・ 新たな創造活動の担い手を育成・支援する基盤を整備し、世界で活躍するミュージシャンやクリエイターを輩出する活気あるまちづくりを推進する。
- ・ 国内外から多くのクリエイティブ人材が来訪し、市民と連携・交流する機会を創出する。

◆ 多様な文化や創造的な活動に触れる機会の創出

- ユネスコ創造都市ネットワーク*音楽分野の加盟都市として、世界の創造都市を始め国内外の都市とクリエイティブ人材の交流・連携を進める。

*ユネスコ創造都市ネットワーク：地域固有の文化の消失を防ぎ、文化的多様性を保持することを背景に、創造的・文化的産業の振興と持続可能な都市の開発に向けた国際的な都市間連携・交流を促進するプログラム。ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が加盟の審査・選考を行う。

- 国際コンクール、音楽祭などの開催により、市民が世界の良質な文化に触れる機会を創出する。
- 市民活動団体が主体的に実施する創造的な取り組みを支援し、活動の活発化を図る。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 音楽を始めとする市の文化事業に対する満足度

41.0%  43.0%

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

- ・ デジタルを効果的に活用することで、世界から選ばれる浜松・浜名湖ブランドを確立し、交流人口・関係人口を拡大する。
- ・ 国内外から多くの来訪者が滞在して観光を楽しみ、リピーターとなるよう、誰もが安全快適にアクセスできる受け入れ環境を整備するとともに、自然、歴史、景観などの資源を国内有数の浜松・浜名湖ブランドに育て、浜名湖観光圏*の魅力を高める。

*浜名湖観光圏：浜名湖及びその周辺地域の観光施策を官民・自治体の枠を超えて推進していく観光圏として国の認可を受けた。浜名湖サイクリングや舟運、浜名湖花フェスタなどの観光地の魅力を向上する事業を行うことで、国内外からの観光旅客の来訪及び滞在を促進し地域を活性化することを目的とする。

- ・ ふるさと納税を活用して、浜松への愛着を育て関係人口の拡大に繋げる。

◆ ブランドの確立

- デジタルを活用した戦略的なシティプロモーションを展開し、都市の知名度やイメージを向上させるとともに、国内外の人から信用され、好まれ、選ばれる都市ブランドを確立する。
- 徳川家康公浜松城築城450年や三方ヶ原の戦い450年を契機に、「出世」

- をキーワードとした様々なナンバー1、オンリー1（ヒト、モノ、コト）を発掘・発信し、他の地域との差別化を図り、都市の魅力を向上させる。
- 競技団体や関係機関と連携した情報発信などビーチ・マリンスポーツの聖地としての都市の魅力を向上させる。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 市区町村別認知度ランキング（全国順位）

28位  15位

- ・ 市区町村別魅力度ランキング（全国順位）

44位  30位

◆ 国内外からの交流人口の拡大

- 浜松・浜名湖ツーリズムビューロー（日本版DMO*）を中心に、官民連携により浜松・浜名湖地域の誘客・受け入れ体制の整備を進め、世界に誇る観光地域づくりを推進する。

*DMO：Destination Management/Marketing Organizationの略称。戦略策定、各種調査、マーケティング、商品造成、プロモーション等を一体的に実施する、主に米国、欧州で見られる組織体。

- 公的機関が主催するコンベンション（会議）に加え、民間企業が主催する報奨・研修旅行やスポーツ大会・合宿など、MICE*全般の誘致強化を図る。

*MICE：企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・イベント（Exhibition/Event）の頭文字で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

- 東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会へ向け、産業分野、官民の連携を深め、事前キャンプの受け入れを行うとともに、そのノウハウを活かし、国際大会や全国大会等の大型スポーツイベントやナショナルチーム等の合宿誘致を図る。
- 官民連携・広域連携の強化、受入環境の整備、デジタルマーケティングの活用による戦略的な情報発信等によって、さらなるインバウンドの獲得を図る。
- 徳川家康公ゆかりの地など市内の歴史遺産を活用し、歴史と文化の街・浜松として、交流人口の拡大を図る。
- 太平洋岸自転車道及び浜名湖周遊自転車道（通称「ハマイチ」）のナショナルサイクルルートへの指定を目指した取り組みを進め、サイクルツーリズムを推進する。
- 国の庭園間交流連携促進計画登録制度に登録された「アメイジングガーデン・浜名湖」を中心として、ガーデンツーリズムを推進する。
- 文化財保存活用地域計画*を策定し、歴史・文化資源の活用、整備を進める。

*文化財保存活用地域計画：市域にある文化財の保存と活用の方針を示したマスタープラン。平成30年の文化財保護法の改正により、新たに制度化された。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 観光交流客数 1,881 万人/年度 2,200 万人/年度
- ・ 外国人延べ宿泊者数 37 万人泊/年度 41 万人泊/年度
- ・ 欧米豪からの外国人延べ宿泊者数 3 万 3 千人泊/年度 4 万 1 千人/年度

◆ ふるさと納税の受入強化

- ふるさと納税制度を活用して、本市の特産品等を全国に発信し、返礼品に触れる機会の提供をすることで関係人口を拡大する。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 寄附件数 49,370 件/年度 200,000 件/年度

(3) 地域の特性を活かした魅力づくり

- ・ 地域資源の積極的な活用により、商業、業務、居住機能の充実・強化や交流人口の増加を目指し、「民間投資が誘発される都心づくり」や「民間活力を活用したにぎわいの創出」を図ることで、創造都市の玄関口にふさわしい魅力ある都心を形成する。
- ・ 市民、企業、団体などとの協働により、ひとつの浜松の発展のため、オール浜松体制で中山間地域の振興を図る。

◆ まちなかのにぎわい創出

- リノベーションなどの手法を活用し、魅力的な店舗や場所等の集積を図る。
- 多くの人々が来街目的となる魅力的な憩える公共空間を創出する。
- まちなかの就業人口を増加させるため、オフィス支援や創業支援を積極的に進める。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 歩行者通行量（休日・25 地点） 190,833 人 241,000 人
- ・ 歩行者通行量（平日・25 地点） 135,972 人 146,500 人

◆ 中山間地域のにぎわい創出

- 中山間地域に対する市民の関心を高めるために、都市部等の人々が中山間地域に様々な形で関わるきっかけづくりなど交流機会を創出する。
- 中山間地域の課題解決に向け、地域住民によるまちづくり等を支援する

取り組みを推進する。

- 首都圏をはじめとする都市部の人に、中山間地域の魅力を様々な手段でPRすることで、中山間地域の移住を促進する。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 市が実施する交流事業の回数

24回/年度  30回/年度

- ・ 市の制度を利用して中山間地域へ移住した人数

24人/年度  35人/年度

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成



- ・ 人口減少社会においても持続可能な地域コミュニティづくりを進め、多様な交流を通じて人とつながり、支えあう地域社会を形成する。
- ・ 70歳現役都市・浜松の推進や健康寿命の延伸に取り組み、超高齢社会においても、誰もが健康で明るく、生きがいを持って現役で活躍できる「まち」づくりを進める。

(1) 次世代を見据えた地域コミュニティの形成

- ・ 地域防犯の取り組みにより犯罪のない社会を目指す。
- ・ 市民、市民活動団体、事業者、市といった多様な主体によるまちづくりに取り組む環境づくりを行う。
- ・ 多文化共生*推進の関係機関や各種団体など多様な主体との協力・連携により、外国人の地域社会での活躍を促進する。

*多文化共生：国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

◆ 市民協働のまちづくりの推進

- 地域住民による自主的防犯活動団体や防犯協会を通じ、地区ごとの連携を図るとともに地域の防犯活動を推進する。
- 市民等が繁華街を安心して通行し、利用することができる快適な生活環境の確保を図る。
- 危険な空き家などの適正管理に向けた対策を強化する。
- コーディネーターとして市民、市民活動団体、事業者が必要とする支援を行い、市民協働に参画する環境を整える。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 市と多様な主体との協働件数

160件/年度  170件/年度

◆ 多様性を認め合う市民主体の地域社会の形成

- 外国人市民との多文化共生を推進し、相互の理解と尊重の下、多様性を活かした市民活動が浜松の特長となるまちづくりを進める。
- パートナーシップ宣誓制度などにより、多様性を認め合い誰もが参画できる環境づくりを推進する。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくりの市民満足度

9.4%  20.0%

- ・ 世界の人々との活発な市民交流の取組の市民満足度

11.1%  25.0%

(2) 人と人とのつながりをつくる社会の実現

- ・ 活躍の場を求めている高齢の人や障がいのある人が社会活動に参加しやすい仕組みを構築し、住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心して暮らすことができる地域社会を目指す。
- ・ 介護などが必要な人に対しては、医療・介護の連携を一層強化し、必要なサービスが円滑に提供できる体制を整備する。

◆ 医療・介護・予防・住まい・生活支援など切れ目ないサービス提供

- 地域包括ケアシステム*の深化・推進に向け、地域包括支援センター*（高齢者相談センター）による支援の強化や医療と介護の連携、認知症の予防・重度化防止など総合的な対策を実施する。

*地域包括ケアシステム：高齢者が介護や支援が必要な状態となっても、できる限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように、予防・介護・医療・生活支援・住まいの必要なサービスが包括的に提供される仕組み。

*地域包括支援センター：地域で暮らす高齢者を介護・福祉・健康・医療など、さまざまな面から支援する総合相談機関。

- 障がいについての理解及び社会参加の促進などにより、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域づくりを進める。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 認知症サポーター*養成人数

4,118人/年度  4,940人/年度

- ・ グループホーム*の定員

(累計)
429人  575人

*認知症サポーター：認知症を正しく理解し、地域の認知症の人やその家族を見守り、支援する人。

*グループホーム：障がいのある人が、入所施設や病院から住み慣れた地域での生活へ移行するために、共同生活の場において相談や日常生活上の援助、入浴、排せつ、食事の介護等を提供する施設。

◆ 70歳現役都市・浜松の推進（高齢者の社会参加支援）

- 高齢者の社会参加を奨励・支援し、ボランティア活動を通じた地域貢献や介護予防意識の向上と、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続できるように支え合い活動の活性化を図る。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 浜松市ささえあいポイント事業*のボランティア登録人数

3,849人 → 7,400人

*ささえあいポイント事業：福祉施設等や地域で行ったボランティア活動及び高齢者自身の介護予防活動に対して付与されたポイントを奨励金や寄附に交換できる事業。

(3) 政令指定都市トップの健康寿命の延伸

- ・ 70歳現役都市・浜松の実現に向け、病気や介護の予防に重点を置き、心と体の健康を維持しながら、いきいきと暮らし、快適で質の高い生活を送ることができるよう支援する。

◆ 一人ひとりが健康づくりに取り組みやすい環境整備

- ロコモーショントレーニング*やスローエアロビックの普及など、市民が健康づくりに取り組むきっかけを提供するとともに、官民連携し、介護予防・重度化防止、生活習慣病の発症・重症化予防に努める。

*ロコモーショントレーニング：加齢に伴う運動器の障害（ロコモティブシンドローム）を予防・改善するために行う、スクワットと開眼片足立ちを中心とした運動。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 健康寿命

男 73.19 歳、女 76.19 歳 → 男 74.19 歳、女 77.19 歳

- ・ ロコモーショントレーニング事業への参加者数

14,438人 → 19,000人 (累計)

Ⅲ-4 コンパクトでメリハリの効いたまちづくり



- ・ コンパクトでメリハリの効いた都市づくりの推進により、「多彩に輝き、持続的に発展する都市」の実現を目指す。

(1) 拠点ネットワーク型都市構造の形成

- ・人口減少社会においても、市街地の一定の人口密度を維持するとともに、日常生活に必要なサービスが身近に存在するコンパクトでメリハリの効いた「拠点ネットワーク型都市構造*」を目指し、公共交通と連携したまちづくりを推進する。

*拠点ネットワーク型都市構造：浜松市都市計画マスタープランで本市の将来都市構造として示す、都市機能が集積した複数の拠点形成と公共交通を基本とした有機的な連携による都市構造のこと。

◆ 集約型の都市づくり

- 立地適正化計画*に則り、居住及び生活サービスに関連する都市機能の誘導を図るため、土地利用制度の運用やまちづくりを推進する。

*立地適正化計画：都市再生特別措置法に基づき、市町村が住宅及び医療施設、福祉施設、商業施設その他の居住に関連する施設の立地を一定の区域に誘導するため定める計画。

- 市民のライフステージに応じた居住の安定、居住水準の向上を図るため、市営住宅及び民間賃貸借住宅などを有効に活用する。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 居住誘導区域内人口密度
61.5人/ha → 人口密度の維持（61.5人/ha）
- ・ 居住及び居住関連施設の立地誘導を図る用途地域*の変更
新規 → 22ha

*用途地域：市街地の土地利用の基本的枠組みを明らかにするものであり、住居、商業、工業その他の用途を適切に配分し、建築物の用途、密度及び形態などに関する制限を設定することにより、機能的な都市活動の推進、良好な都市環境の形成を図るもの

◆ 拠点を結ぶ交通ネットワークの形成

- 都心や地域生活拠点などを公共交通及び道路のネットワークで結び、拠点間移動を促進する。
- 主要な駅の駅前広場整備及び主要なバス路線のバス停環境改善によって、交通結節点の機能を強化し、公共交通の利便性や魅力を高める。

重要業績評価指標(KPI)(2024年)

- ・ 主要な駅、バス停の利用者
約2,720万人 → 利用者数の維持（約2,720万人）

Ⅲ-5 持続可能な都市経営



- ・ 効果的・効率的な市民サービスの提供や、持続可能で多様性のある社会の実

現を目指し、SDGsの達成に向けた取り組みを推進するとともにデジタルの力を最大限に活用し、持続可能な都市経営を行う。

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

- ・ 組織や職員の適正化、公共施設などのファシリティマネジメント*や財源の確保、規律ある財政運営など、不断の行財政改革・改善を進める。

*ファシリティマネジメント：企業・団体などが保有する資産や利用環境を経営戦略的視点から、総合的かつ総括的に企画、管理、活用する経営活動のこと。



- ・ 遠州地域、三遠南信地域の広域連携を進め、圏域の一体的な発展を目指す。

◆ 持続可能な市民サービス提供体制の構築

- 資産の総合的・総括的な管理と施設の長寿命化を推進し、多様な利用など柔軟に資産を活用するとともに、保有財産の売却などにより新たな財源を確保する。
- 市民が日常利用する多様なデジタルデバイスやツールに対応可能なサービス提供基盤を構築する。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ ハコモノ資産・インフラ資産充足率*

ハコモノ資産 70.0%  80.0%、インフラ資産 60.0%  70.0%

*ハコモノ資産・インフラ資産充足率：保有資産に関する将来の改修・更新経費試算値（一年当たり）に対して、改修・更新に係る投資実績額（一年当たり）が占める割合のこと。

◆ 広域連携の推進

- 「三遠南信地域連携ビジョン推進会議」（SENA）において、既存の連携事業はもとより、新たな連携を創出することで、三遠南信地域の連携をさらに強化し、地域の振興、発展を図る。
- 遠州地域8市1町からなる「遠州広域行政推進会議」において、地域の共通課題に関し共同研究を進め、その解決を図る。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 三遠南信地域における新規連携施策数

(累計)
21件  34件



(2) 持続可能で多様性のある社会の実現

- ・ 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、企業や市民等の理解を深め、幅広い活動の推進を図る。
- ・ ICT等先端技術やデータを活用し、都市全体の最適化を図ることで、地域の持続的な発展につなげる。
- ・ 持続可能な社会の実現のため、省エネルギーの普及促進や再生可能エネルギーの利用促進のほか、まちの低炭素化を図ることで、温室効果ガス排出削減を推進する。

◆ SDGs 達成に向けたステークホルダーの活動推進

- 浜松市 SDGs 推進プラットフォームなどにおけるステークホルダーの連携を通じて、地域課題の解決を推進する。
- SDGs に対する市民の関心を向上させ、消費活動など個人レベルの取り組みを促進する。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ SDGs プラットフォーム会員による会員間交流イベント等の回数
新規  15回/年度
- ・ フェアトレード*に関する市民の認知度
44.1%  80.0%


*フェアトレード：開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」。

◆ デジタルファーストによる都市づくり

- ICT 等先端技術やデータを活用し都市の最適化を図るため、デジタル・スマートシティを推進する官民連携組織（プラットフォーム）の体制整備・運営、指針となる構想策定、分野横断的なデータ活用を図る。
- 官民の連携体制のもと、異なる移動手段を切れ目なく繋ぎ、他のサービスとの連携を図る MaaS*の取り組みを進める。

*MaaS：“Mobility as a Service”の略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段を切れ目なく一つのアプリで提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、一元的なサービスとして捉える概念。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 官民のオープン化されたデータを活用したアプリケーション等、新サービス・アイデアの発案件数
新規  7件/年度

◆ 温室効果ガス排出削減

- 温暖化防止に向け市民や事業者による省エネルギー対策など自主的な取り組みを推進する。
- 温室効果ガス排出量を削減するため、再生可能エネルギーの利用を促進する。
- 家庭や事業者から排出されるごみを減量するとともに、プラスチックの資源化、プラスチックごみ排出ゼロに向け対策を推進する。

重要業績評価指標(KPI)

- ・ 市域からの温室効果ガス排出量
5,344kt-CO₂  5,129kt-CO₂